

自己ベスト更新へ、自分との戦い



10月20日(木)に佐竹美緒選手(高田中学校3年生)が、愛媛県で開催されるJOCジュニアオリンピックカップ第53回U16陸上競技大会へ三段跳で県代表として出場することを報告するために大橋孝町長を訪問しました。佐竹選手は「初めての舞台上で強い人たちと戦えることが嬉しいです。自己ベストを更新し、県記録を目指したいです」と更なる飛躍を約束しました。

町長は「あまり気負わず、練習の成果を存分に発揮してきてください」と激励しました。

すぐそこに見えた日本一



10月2日(日)に大阪府で開催された第14回JKJO全日本空手道選手権大会において、一般男子軽量級で3位に入賞した岩永勝亮選手が、その報告のために10月24日(月)に大橋孝町長を訪問しました。岩永選手は「一般男子の部で入賞できて、ほっとしています。大きな実力差があったとは思っていないので、更に練習に励み、経験を重ねていきたいです」と安堵と同時に悔しさを話しました。

町長は「まだまだ先の話ですが、行く末は指導する立場として、空手を先導し、町の空手界を盛りあげて欲しいと思います」と次世代の育成者としての活躍も期待しました。

住民が主役の“協働のまちづくり”



上多度、笠郷、広幡、養老に続いて5地区目となる日吉地域自治町民会議が、10月10日(月)に開催された設立総会で承認され、20日(木)に認定証が交付されました。大久保陽一会長は「地域住民の声を聴き、現在、地域内に存在する問題を知り、解決していくために取り組んでいきます」と意気込みを話しました。

ふるさと笠郷を美しく



11月6日(日)に笠郷地区にて、地域創生自治町民会議の美化活動を推進する取り組みとしてクリーン活動が行われました。同自治町民会議では、自分たちの地域へ愛着を持ち、自分たちでできることを積極的に、という意識のもと「高めよう笠郷の美しい品性」をスローガンに掲げ、環境美化運動を推進しています。

参加した地域住民や消防団員は、設定された重点清掃場所を中心にごみを拾いました。参加者は、自分たちのまちを美しくするために、畦や水路に捨てられたごみを泥だらけになって拾っていました。

地域の関わりの場を



10月1日(土)に室原ふれあい広場にて「ふれあいフェスティバルむろはら」が開催されました。近年のコロナ禍において中止となった行事を見直し、地域の関わりの場を設けることを目的に今回初めての開催となりました。産地直送の野菜などを販売する軽トラ市、地元の住民による手作り雑貨やおはぎ・たいやきなどの販売、周辺地域の企業によるPRブースなど、感染症対策をしながらも会場は盛り上がっていました。